



びっきー

第14号

【学校教育目標】自ら学び心豊かにたくましく
生きる生徒の育成**終業式にあたり、1学期を振り返って**

(生徒の思いに感動)

新型コロナウイルス感染症拡大防止にともなう政府の緊急事態宣言を受けて、4月21日(火)~5月13日(水)の13日間(週休日や祝日を除く授業日)が臨時休業になってしまいました。その回復措置として、従来の1学期の終業式を7月31日(金)に延期し、2学期の始業式を8月24日(月)に早め、13日間の本年度分の臨時休業の授業が補うことになりました。その間、全国や九州中学校総合体育大会の中止が決定され、県中体連の大会も中止になり落胆しましたが、杵島武雄地区の中体連が規模縮小、感染防止対策を講じて開催されたことはありがたいことでした。

この新型コロナウイルス感染症が世界的に拡散し続け、政治家や経済界ではこの危機を「第3次世界大戦」ともいう人もいます。果たしてウイルスによる戦争でしょうか?人類がこれまで歩んできた歴史の中には、1918年、全世界に流行し、世界人口の約1/4にあたる5億人が感染し、そのうち2000万~4500万人の命を奪ったといわれている「スペイン風邪」。あの頃からすると現代は医学・医療はめざましく進展しています。それなのにこの新型コロナウイルス感染症がなかなか収束に向かわないから不安であり、怖いと感じていると思います。私たちが生きてきた短い人生では初めてですが、これまでの長い歴史からすると、日本でも数々の「疫病」が流行し、感染しないために幾度も生活様式を変え、人類はこれまで生きてきたことと思います。

感染が拡大し始めた2月。あれから、桜が咲き、暖かい春が訪れ、大雨や洪水、土砂災害を心配した梅雨も過ぎ、今年も猛暑と戦う季節になりました。確実に時や季節は変化しています。時は移り変わり、よくないことも長くは続かないはずですが。そういうことを思うと「平家物語」の「諸行無常」や「栄枯盛衰」という言葉が過ぎってきます。私たちが住む地球において、人類は「ウイルス・菌」とも「共生」して、うまく生きていかなければならないと思います。これまでの長い歴史の中で人類は、感染しない対策を講じ、賢く対応して生きてきたと思います。令和のこの時代も、一人一人が感染防止に努め、新しい生活様式を工夫してルールを遵守しなければならないと思います。「with コロナ」このウイルスに人類が打ち勝つまで!

学校行事においても、このコロナ禍の状況で、生徒の健康、安全を第一優先にすると、密になる行事はすべて中止しなければなりません。「思い出」より「健康・命」優先であることは当然です。しかし、私は校長として、このコロナ禍の中で、学校行事を中止や延期にすることを簡単に決定したくないと思っています。3年生のことを思うと、今

こそ知恵を絞って、感染防止策を考え、外部の協力も得ながら実施したいと思っています。それでも、感染リスクが回避できないときは中止にせざるを得ないと思っています。つまり、決して無理はしませんが、感染防止を講じて、形を変えてでも実施したいと思っていますが、実現できるか不安もあります。

そのこともあり、臨時休業前の4月に生徒会執行部等に「体育大会」についての意見を求めました。生徒たちは、この感染拡大の状況の中で、感染防止策を踏まえて意見を言ってくれました。私は、生徒たちから教えられました。そして、勇気をもらいました。私が60年近く生きてきて初めてのこの状況に対応しているのと違い、新しい危機や課題に対する対応能力や考え方は生徒の方が柔軟でした。

私自身、生徒の主体性を育成したいと日頃から思っていたので、これからは生徒とともに学校行事を作ろうと思いました。本当に、生徒に教えたれた瞬間でした。この生徒たちは、確実に「生きる力」をこれからも育ててくれるだろうということを強く感じました。

そういう中で、期末テストも終わって7月に入り、そろそろ修学旅行について詰めていかなければと、生徒会長の大坪さんを校長室に呼んで尋ねました。「2学期は『修学旅行』『体育大会』『文化発表会・合唱コンクール』と学校行事が多くなるけど、この3つの学校行事の中で、この状況だから仕方ない、1つだけ取るとするならば、どれを実施したいですか？」と尋ねました。おそらく『修学旅行』と答えるだろうと予測していました。しかし、大坪さんは『体育大会』と『文化発表会』と答えました。私は、驚き「何で？」と尋ねたら、すかさず「『修学旅行』は3年生だけの行事であって、『体育大会と文化発表会』は学校全体の行事だから、みんなで盛り上げて実施したい。」と答えてくれました。それを聞いて、私自身、感動しました。また、こういう思いでみんなをリードしてくれている生徒会長が江北中学校にいることを誇りに思います。

新型コロナウイルス感染がしばらくは収束に向かうことは難しいと思います。南九州の修学旅行の行程など感染リスクが考えられるものは生徒とも協議して取り止めました。これなら感染リスクも低いのではないかと計画を修正しましたが、またさらに状況は変わり、第1波以上の感染拡大が連日続いている状況になりました。最終的に、生徒の安全を最優先に考え、育友会執行部とも協議し、生徒たちには残念な思いをさせますが、苦渋の決断で南九州への修学旅行を取り止め、県内の2泊3日の修学旅行に変更しました。決断が早かったかもわかりませんが、今度登校する8月24日の始業式で、そのころの感染状況はわかりませんが、既にキャンセル料が発生します。そういうこともあり1学期中に判断しました。また、県内であれば発症場所や状況について把握できる環境にあり、状況によっては変更も可能だと考えました。同時に、生徒に行程プランを立てさせ、主体性も育成したいと思っています。盆明け2週間後がちょうど修学旅行の時期で憂慮していますが、感染が拡大しないことを願うばかりです。

こういう感染拡大の危機的な状況の中で、生徒の成長、そして生徒の豊かな心に感動するとともに、生徒の主体性を今後も伸ばしていきたいと感じた学期でした。